



会話中の携帯電話Bを切れます。



その瞬間、ポットの重さの違いを感じると思います。多くの方が「重くなった」と実感できるのではないでしょうか。
実験は以上です。



ではなぜ、ポットの重さに変化が起きたのでしょうか。解説いたしますと、携帯電話Bから携帯電話Aに通話することで携帯Bの電磁波防護機能が、携帯Aと連動し、携帯Aに電磁波防護機能が働きます。ところが携帯Bとの通話が途絶えると、電磁波防護機能が解除され、「重くなった」と感じる現象が起きたのです。



言い換えるならば、電磁波防護機能が働かない携帯Aから発生する電磁波によって免疫力が低下し、体力が消耗された結果、重さの差が実感できた、ということになります。



これを量子共鳴分析器 QRS で測定した数値で言うなら、身体の元気度がプラス19の状態から、マイナス125まで、大きく下がったことを意味します。